

JA・生産者との連携で実需者の多様なニーズに対応

～（株）ふくれん宮田工場（福岡県宮若市）～



1 組織の概要

組織名称	（株）ふくれん 宮田工場
業種	青果直販、農産物加工
代表者名	（株）ふくれん 代表取締役社長 白石 吉行
所在地	福岡県宮若市四郎丸240番地31
連絡先	TEL:0949-34-1004 FAX:0949-34-1007
社員数	266名 内訳（事務職 38名、製造 19名、業務委託 209名）

2 取組の推移

昭和34年	福岡県園芸農業協同組合連合会が発足
平成 9年	10月に宮田食品加工センターを整備し、カット野菜・大豆加工事業を開始
平成10年	福岡県園芸農業協同組合連合会と福岡県購買販売農業協同組合連合会が合併し、福岡県農業協同組合連合会（JAふくれん）が発足
平成13年	JAふくれんから飲料・食品加工事業部門が独立し、株式会社ふくれん発足

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1) 基礎情報

主な野菜品目	キャベツ	レタス	にんじん	たまねぎ
主な用途	カット野菜	カット野菜	カット野菜	カット野菜
年間使用量	871t	199t	219t	196t
国産使用比率	100%	100%	100%	100%
主な産地 （入荷時期）	大分・熊本・群馬・ 北海道（6～11月） 福岡 （11～6月）	長野・長崎 （6～10月） 福岡 （11～5月）	北海道 （7～12月） 熊本 （12～6月）	北海道 （9～3月） 佐賀 （4～9月）
主な原料調達先	県内JA 東京青果（株）他	県内JA 東京青果（株）	福岡市場業者	（株）南高青果 他
原料の受入形態	10kコンテナ	8kgDB 折コンテナ	20kgDB箱	20kコンテナ
製品出荷先	九州95%（量販店向け）、中国地方5%			

注：年間使用量、国産使用比率は26年度データ

(2) 取組の特徴

JAとの契約栽培を中心に国産原料を使用。

- ①原料は福岡県産を基本に、JAとの契約取引を行い、九州産が不足する夏期には、市場経由で購入（JAとの契約率は5～6割程度、冬レタスについては8割）。
- ②カット野菜は年間2,500 t、1日に7～8 tの野菜原料を使用し、日量25,000点（袋サラダ、カップサラダ等が主体）を量販店（9割以上が九州内）のPB商品向けに製造。
- ③県内のJA主催の生産計画会議に年3～5回参加し、生産者や関係機関と情報交換を実施。

(3) 国産原材料の使用理由

福岡県産、国産の農産物の付加価値を高め、農家の所得安定に貢献するため。

(4) 関係機関の支援

平成8年度・平成9年度 地域連携確立農業構造改善事業で野菜加工施設を整備。

4 販売先の開拓

量販店におけるバックヤードの加工調整スペース確保や労働力不足の課題を解消し、取引先を拡大。

5 課題とその対応

- ①異常気象時（豪雨、台風、寒波等）の数量確保⇒早めの情報収集と代替産地の確保。
- ②歩留まり向上対策⇒JA・生産者等に出荷時の重量（DB箱等の正味重量）を確保してもらう。また、品質改善の徹底を依頼。工場搬入後は、原料ごとに加工までの日数基準を設け、廃棄量を極力削減。
- ③人件費の削減⇒機械包装等による削減。
- ④製造アイテム数の増加による作業効率の低下⇒量販店が行う会議等で作業効率を考えた新商品の提案等を積極的に実施。

6 取組成果

- ①契約栽培での取引を主体としていることから、市場価格の変動を受けず安定した供給が可能。
- ②量販店からの納入製品に対するさまざまな要望をJA（生産者）と共に検討し、対応した結果、取引数量の拡大が図られた（鮮度保持への対応等）。

7 今後の展開

- ①顧客を集約し、袋サラダの製造量を増やすなど品目を絞り対応。
- ②百貨店等の食料品売場からの要望により、フリルレタス、ロメインレタスなど業務用に特化した品目等の需要もあることから、JAと情報交換しながら、対応を検討。
- ③実需者が求める多様な販売方法（量売り等）に適した商品開発（甘いキャベツ、新品種のトマト等）。

